

惹かれるのは 異文化同士が出会った時の面白さ。

17世紀のジャポニズム。

PROFILE



コピーライター、「SOUL WORK」主宰デザイナーの古野雅子さん。トレーディングカードにもなっているオーガリーチで購入したメカネに合わせて、手作りしたイヤリング。ここにも彼女独特のセンスが現れている。

異文化が出会った時に生まれる何か。
どこにも属さない空気が新しい。

コピーライターと自ブ
ラード「ソウル・ワーク」
の主催デザイナー、二つ
の顔を持ち多才ぶりを発
揮する古野雅子さん。着
物地を素材として扱うな
ど、そのデザインにも現
れており、異文化
の素材が出会うことによ
って生まれるそれまで以
上の何か、に惹かれてい
るという彼女。

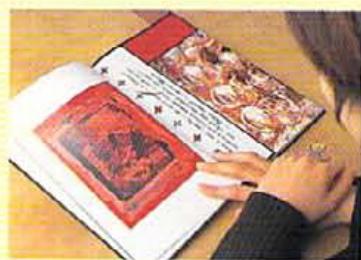
素材は本物にこだわる古野サンお気に入りの
曲げもののカッフ。はめているリングは、子
供の頬舟上に作ってもらったもの。気に入っ
たものは長く使うよう、という。



アヤザワリは生徒などによって作られる
のセンスが生まれたそれは本物の手作り感合つ
お気に入りの時計と「ツワル・ワード」の腕時計
木屋町の「ラムダ・スカリ」で購入しリサイクル
注目。



ライターをしながら大阪のモード学園の教諭で活動。一年後、「SOUL WORK」を設立。「デザイナーはソロでもう一人オーストラリア出身の三つ子のショーン・チャーチー、トロイ・チャーチーも加わりハーフアーリー」という。現在は「スチューム・デザイン」がメインになつていて、「ソウル・ワーク」は「アメイク」としてメトロで「JAPAN MODE」を展開。「この国のお客様も興味はない」と新しくセレクト。帽子、ヘッドギアなど、アメイクの名前で販売。これまでの経験で有名な「ハイティ・G・ジーンズ」や「チャングル」のシャンボ氏のオリジナル楽曲「G・M」という歌が歌詞で歌詞大。今後はより総合的に活動していくことを目指す。彼女は「少し高くて、長く付けていて味が出てくる本物がいいから」と語る。また自宅のトホの木のテーブルで。



友人のカメラマン、中村一弘サンが取り下ろした関係で、自身も「詩」を執筆している。本木雅弘のヘア・ヌード後の写真集「HILL HEAVEN」。テーマは天国。京都のイタリア会館にある「サンシャインカフェ」で見ることができます。



友人の母から受けたという
70年代の「エレガント」。
今見ても新鮮の一言、「デザインのいい刺激になります。」



和色の色合わせとアバ
ンギャルドなシリエット
が古野サンらしい帽子。



白石玄関のディスプレイは
こんな感じ。天神さんなど
で見つけた洋のあらうアイテム
が飾られている。アーティス



SOUL WORKの新作。着物地を
素材として扱い、ファスナーとブリ
ーツを使い、ティティールに隠されたモダ
ン仕上がり。



旦那が実はメトロなどで活躍中の
「チャングリ」のメンバー、「Kyoto Jazz Massive」
としてコンピレーション・アルバムにも参加。ジャケット写真は
ある伊島葉。